

海外研修報告書

Traveling Fellowship Residency Program 2013

川崎医科大学

研修医2年 印南 恭子

UNIVERSITÄTS
FREIBURG KLINIKUM



はじめに

私は今回 2007 年から始まった Traveling Fellowship Residency Program(TFRP) 海外研修プログラムに応募し、第 7 期生として 2013 年 7 月に 1 カ月間ドイツ・フライブルグ大学皮膚科病棟へ研修に行かせていただきました。学生の頃、海外研修に参加された先輩方の発表を聞いて海外研修に興味を持っており、初期研修先として川崎医科大学附属病院を選んだ一つの理由でもありました。自己免疫疾患や皮膚病変に興味があり、今回フライブルグ大学皮膚科での研修に応募させていただきました。2013 年 6 月、川崎医科大学附属病院皮膚科で研修し、指導していただいた後、ドイツへ出発となりました。海外研修は人生初めての経験で、ドイツに行くことも初めてでした。海外旅行ですら数回しか行ったことがない私にとって、今回の研修は、研修に関してだけでなく、生活や交通、語学に関してなど不安なことがたくさんありました。



フライブルグ

ドイツの西南部に位置する、豊かな自然の黒い森（シュヴァルツヴァルト）に生まれた古都フライブルグは、モザイク模様の石畳と、その脇を流れる水路が心地よい美しい大学町でした。環境保護で先進的な取り組みをされており、愛媛県松山市の姉妹都市でもあることから、愛媛県出身の私にとってとても住み心地の良い町でした。病院から少し離れた場所に寮を手配していただき、トラム（路面電車）で病院へ通いました。言語はドイツ語ですが、病院内だけでなく、町の人ほとんどが英語を理解しており、英語でコミュニケーションをとることができました。





皮膚科研修

6月28日、私は1か月間お世話になるフライブルグ大学皮膚科病棟（Hautklinik）へ挨拶に伺いました。Prof.Tuderman先生らと軽食を食べながら英語でお話しましたが、緊張で考えていた英語の挨拶も頭から飛んでいき、真っ白になってしまったことを覚えています。もっと英語を勉強しなければ...と切実に思いました。



私の1カ月の研修スケジュールは表の通りです。

7月	
1~5日	Day Hospital
8・9日	Outpatient Department
10~15日	Ward Rost
16・17日	Ward Jacobi
18・19日	Operating Department
22・23日	Allergy Department
24~26日	WoundHealing/Laser

皮膚科の各分野を数日単位で研修させていただき、充実した内容でした。どの分野でもたくさんのことを熱心に教えていただきました。病棟では皮膚生検、潰瘍のデブリドメント、採血やルート確保などの手技をしたり、1日約30件の手術を行っている手術室では皮膚切開、縫合などもさせていただきました。



私が一番興味を持ったのは、外来診療でした。

患者さんはドイツ人だけでなく、イタリアやトルコなど色々な国の方が受診しており人種も様々でした。一般外来では酒さや足白癬、帯状疱疹など、日本で多く経験した症例もみることができました。午前は一般外来、午後は①乾癬 ②メラノーマ ③自己免疫疾患と曜日によって各疾患の専門外来となっており、色々な患者さんをみることができるので、私は時間を見つけてよく外来に来させてもらっていました。



火曜から金曜の12時半からは20人近い皮膚科医局員が全員集まるカンファレンスがありました。毎回先生が診察した外来患者さんについてプレゼンテーションし、実際に患者さんにカンファレンス室に入って中心の椅子に座ってもらい、患者さんの前で所見や治療について話し合っていました。見たことのないカンファレンス形式だったので印象的でした。



研修を通して感じたことは、日本とドイツの医療において共通部分・異なる部分があることです。デイホスピタルという日帰りで時間をかけて診察を受けられるシステムがあったり、また、男女とも好んで日焼けをする人が多いといった環境の違いや、国や人種によっても疾患の頻度は違っていました。基本の身体診察や基本治療は日本で学んだことと大きな違いはなく、実際患者さんは皮膚病変のみでなく、問診後に衣服を脱いで頭

の上から足の先までくまなく診察されていました。問診・身体診察の重要性を改めて感じさせられました。また、若い先生方はカンファレンスや教授回診前の準備に忙しくしている姿をみて、そういった部分も共通しているなと感じました。

カンファレンスでは、わからないことや疑問点は若い先生から教授まで積極的に意見を出し合っており、もっと自分にも積極性が必要だと感じさせられ、刺激を受けました。

ドイツの観光

平日には、先生方にミュンスターの下で開催されていたワインフェスティバルに誘っていただき仕事が終わった後みんなでお出掛けの日もありました。また、研修以外の週末は、観光へ出かけ、ハイデルベルグの景観や、ローデンプルグのクリスマスミュージアム、スイスのバーゼルからのライン川やミュンヘン新市庁舎、ノイシュバンシュタイン城など、多くの場所を訪れることができました。観光先で日本人の女性や、韓国人の男の子と友達になり、いろいろな人との出会いもありました。



最後に

1ヵ月間の研修を終えて、ドイツの医療現場だけでなく、文化や言語に触れることができ、これからの自分にとって貴重な経験となり、自分の生き方に刺激を与えられました。日本語が通じない環境でホームシックになることもありました。多くの新しい出会いがあり、海外で一人で生活できたことで度胸もつきました。今は充実感・達成感を感じています。今後ぜひ多くの研修医の先生に行ってもらいたいと思いました。

今回、海外研修に行かせていただくことができたのは、海外研修プログラム責任者である長谷川徹教授、植木宏明元学長をはじめ、臨床教育研

修センターの方々、研修前にご指導いただいた当院皮膚科学藤本巨教授はじめ、皮膚科学の先生方、研修先でお世話になった Prof.Schoepf、Prof.Tuderman、Freiburg 大学病院皮膚科学スタッフの方々ドイツまで同行いただき多くのアドバイスを頂いた羽間由紀子先生、研修の情報を提供して頂いた作田由香先生、岡大吾先生に心からお礼申し上げます。また、最後になりましたが、研修期間中にも関わらず、このような機会を与えていただいた臨床教育研修センター長 柏原直樹教授、園尾博司病院長、卒後臨床研修センター長中田昌男教授、福永仁夫学長、川崎誠治理事長をはじめとする川崎医科大学附属病院関係者の皆様に心から感謝申し上げます。